

平成生まれ、二十歳の誓い

～平成21年登別市成人祭～

1月11日(日)、登別マリパークニクスで『平成21年登別市成人祭』（同実行委員会主催）が行われ、振り袖やスーツなどに身を包んだ新成人が大人の仲間入りをしました。

今年の新成人は、昭和63年4月2日から平成元年4月1日までに生れた男性398人と女性278人の計676人で、昨年より38人減。このうち、成人祭には男性172人と女性245人の417人が参加しました。

式典は、市内在住の三味線奏者・白田路明さんの演奏で幕を開け、渡會大輔実行委員長のあいさつの後、市長が「大人としての自覚を持って行動し、自分の持っている夢を実現するため精一杯努力してください」と新成人に激励の言葉を送りました。

続いて、新成人代表の石高億也さんが「限りない可能性を秘めた若者として切磋琢磨し、何事にも積極的に取り組むよう努めます」、辻明日香さんが「夢の実現を目指し、勇気を持って何事にも挑戦するよう努めます」と二十歳の誓いを述べました。

式典後に行われた登別温泉の宿泊券や商品券などが当たる抽選会では、当選者が出るたびに歓声が上がっていました。

新成人の皆さんは、再会した友人と旧交を温めたり、記念写真を撮ったりして、和やかなひとときを過ごしていました。



▲二十歳の誓いを述べる石高億也さん

今年1年、良い年でありますように

～元旦縁起もちつき～



1月1日(木)、泉源公園で『元旦縁起もちつき』（登別観光協会主催）が行われました。

この催しは、登別温泉の名湯『子宝湯』にちなみ、子宝安産、夫婦円満、家内安全を祈願して昭和57年に誕生した郷土芸能です。温泉バイパス工事で平成15年を最後に休止していましたが、若手が復活に向け練習を重ね、今年6年ぶりに復活しました。

見物に訪れた観光客らには、お酒や甘酒が振る舞われたほか、子宝もちつき舞では、太鼓と笛に合わせ4人の若者が巧みにキネを操り、華麗なもちつき舞いを披露。最後に紅白のおもちの入ったおしるこが振る舞われ、見物客は寒い体を温め、新年を祝っていました。

安心して安全に暮らせるように

～平成21年登別市消防出初式～

1月7日(木)、市民会館で『平成21年登別市消防出初式』（市主催）が行われました。

出初式には、消防団員83人をはじめ、陸上自衛隊幌別駐屯地の消防ポンプ班、消防職員の総勢133人と消防車両7台が参加。市民会館駐車場に分列行進で入場し、市長の観閲を受けました。

その後、場所を市民会館中ホールに移し、長年の功績をたたえる表彰式が行われ、消防職員と消防団員計38人が表彰されました。

市長からは、「全国的に災害や事故が複雑多様化し、高齢化により救急搬送が増加しています。市民が安心して安全に暮らせる町づくりと郷土繁栄のため一層精進してください」と述べられ、出席者は決意を新たにしていました。

